

Visual Communication Design for Nursing Homes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辰巳, 明久, 桑田, 知明, 楠, 摩耶 メールアドレス: 所属:
URL	https://kcua.repo.nii.ac.jp/records/263

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



『介護付老人ホームにおけるビジュアルコミュニケーションデザイン』

Visual Communication Design for Nursing Homes

Akihisa Tatsumi 辰巳 明久
Chiaki Kuwata 桑田 知明
Maya Kusunoki 楠 麻耶

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 福間真悟研究グループは、介護付き老人ホーム「ゆうゆうの里 京都」をフィールドとし、IoT による多角的なヘルスデータの収集と分析およびその結果の入居者へのフィードバックを行うプロジェクトを2017年度に開始した。ビジュアルデザイン研究室は、2018年度より、福間真悟研究グループと共同し、医療者と入居者のコミュニケーション

が円滑となり、プロジェクトがより有効となることを目標としたビジュアルコミュニケーションデザインの研究を行っている。

本プロジェクトは、京都大学とビジュアルデザイン研究室との共同研究である一方で、大学院修士課程デザイン専攻ビジュアルデザインの教育としても位置づけられ、2018年度修士課程1回生7名が参加し、学生のアイデアが実装された。

美術研究科デザイン専攻 ビジュアルデザイン 2018年度1回生

今西 賢 郡司 毬子 佐藤 香穂里
佐藤 真優 西尾 友希 林 亭 楊 妹菲



プロジェクトのネーミングとロゴタイプのデザインも学生が行った。



入居者が持ち歩くビーコン端末をシールで装飾するワークショップ。福笑いのような顔のパーツを自由に組み合わせて貼ることで、端末が親しみを持った存在となることにより、入居者にプロジェクトへの参加意識を高めていただくことを目標とした。



福間先生による説明会。説明用資料のデザインは、京都芸大非常勤講師の桑田、楠が担当。



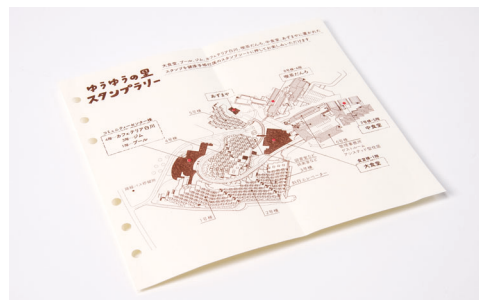
京大の先生と共にワークショップの準備をする学生たち。



歩行距離を伸ばしていただくことを目的としたスタンプラリーを企画し、スタンプコーナーをデザイン。



硬質な印象を和らげるために、施設内各所に設置したビーコン発信機を装飾。



健康情報カードなど、医療者からフィードバックする各種情報ツールや、スタンプラリーの台紙などを持ち歩いていただくためのシステム手帳。



プロジェクトに親しみ、深く記憶していただくために、自由に貼ってもらえるロゴタイプのシールを配布。